

## 賛助会員訪問記

### 株式会社 HGST ジャパン（藤沢事業所）訪問

平成 26 年 10 月 22 日（水）13 時 30 分～15 時 10 分、株式会社 HGST ジャパン藤沢事業所（神奈川県藤沢市）を、杉田龍二総務理事、押木満雅事務局長および斎藤 渚事務局職員の三名で訪問した。日本研究所 田河育也所長、同 HDD 研究部 前田麻貴主任研究員および経営企画室 武藤 弘マネージャー、同 企画管理部 岩田良夫主任（但し各所属名等は取材日当時）の各氏に対応していただいた。

はじめに、武藤氏より、HGST および HGST ジャパンについてのご説明をいただいた。HGST は磁気ディスク装置（HDD）を開発、製造、販売する企業であり、2003 年に日立製作所が米国 IBM 社の HDD 部門を買収して設立した日立グローバルストレージテクノロジーズ（日立 GST）に端を発し、その後 2012 年に米国ウエスタンデジタル社（WD）に買収され、海外の多くの製造拠点を含めて活動を開始している。HGST は主に東南アジアで HDD 主要部品も自社製造し、HDD を製造、販売する垂直統合型の会社であり、その中で、日本の拠点として藤沢事業所および小田原事業所を擁する HGST ジャパン（日本法人）が設立された。

現在 HGST ジャパンには約 1,800 名の社員がおり、藤沢事業所では HDD の開発、設計を、小田原事業所では磁気ヘッドの研究開発及び製造や記録媒体の研究開発を行っている。1956 年に世界初の HDD である“RAMAC”を世に送り出し、その後の HDD 産業を牽引してきた IBM の伝統を引き継ぎ、日立製作所の技術と融合したグローバル企業である。HGST の製品は高品質の開発・設計・製造プロセスにより顧客から高い評価を受けている。また、最近では He 封入の HDD を世界に先駆けて製品化し、HDD 業界に新たな方向性を示している。これらの説明の後、ショールームを見学した。ショールームは 1956 年から連続と続く HDD の歴史が展示されており、次々に伸展する新技術を採用して小型大容量化する HDD 製品が並べられていた。

今回の訪問で、HGST および HGST ジャパンの設立経緯や事業内容を伺い、米国の発想の豊かさと日本の最先端の技術を兼ね備えた企業であり、世界一の技術で新たな HDD を開発して世の中に送り出したいとの強い意気込みを特に感じる事が出来た。話しの中で、方針等は米国本社側で決められるが、日本法人側の独自性を発揮した研究開発が進められるように日々奮闘しているとのグローバル企業ならではの苦労談も伺う事ができた。最後に、最近特に企業からの学会発表が極端に減少して来ているので、是非開発成果を学会の場で発表していただきたいとのお願いをして帰途についた。

（押木 記）



藤沢事業所



取材風景



ショールーム